

## 6) 新コンピュータシステムの開発状況について

昨年度の定時社員総会でご報告した「協会コンピュータシステム開発の経緯と今後の方針」の続報である。昨年度ご報告したように、2021年はまず公募型プロポーザル方式により改めて業者選定を行った。公募の結果4社から提案があり、第2回定例理事会（5月22日）にて審議検討した結果、大手ITサービス企業である日本ユニシス株式会社（以下、ユニシス社）を選定した。

ユニシス社との間では、開発工程に入る前に、①課題の共有、②開発手法の最適化、③資産の分析を目的とした「シェアリング工程」を6月～9月に実施。これを受けて次に「仮説検証工程①」を10月～12月に実施（最終的に3月まで延長）して、業務の流れと業務の範囲を確認するとともに、今後の開発の進め方（①Accessの機能移植、②1.5次システムの機能移植、③2.0次システムの改修の3段階）を確定させた。2022年1月～4月には「仮説検証工程②」として、移植工程で実施する想定だった設計の一部を前倒しして行ったほか、対象業務の抜け漏れの確認、業務の流れと画面の流れの確認、画面や帳票等の項目確認によるデータベースの確認などを実施した。

2022年度からは設計工程に入り、2023年度内の導入を目指してプログラム開発工程、テスト工程へと鋭意進めていく予定である。全体のスケジュール感を配付資料に示す。